

2023年度（2024年3月期） 決算説明資料

2024年5月10日

H.U.グループホールディングス株式会社

（証券コード：4544）

- ※ 本資料では、記載している部分およびEBITDA(営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費)の数値を除いて、日本基準(J-GAAP)に基づく数値にて開示しております。
- ※ 「親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益」を「当期（四半期）純利益」と省略する場合があります。
- ※ 数値は原則として表示数値の単位未満で四捨五入しております。
- ※ 各事業名等については以下のとおり省略する場合があります。

検査・関連サービス事業 : LTS (Lab Testing and its related Services)

臨床検査薬事業 : IVD (In-Vitro Diagnostics)

ヘルスケア関連サービス事業 : HS (Healthcare-related Services)

- ※ 本資料で用いている為替レートは以下の通りです。

2022年度 : 1USD = 135.49 JPY 1EURO = 140.95 JPY

2023年度 : 1USD = 144.61 JPY 1EURO = 156.79 JPY

2024年度（計画） : 1USD = 140.00 JPY 1EURO = 155.00 JPY

- ※ 2022年度において行われたADx NeuroSciences N.V.およびFluxus, Inc.の企業結合に係る暫定的な会計処理が2022年度末に確定しており、2022年度における各数値については、取得原価の当初配分額を見直し、遡及処理しております。

2023年度業績概況

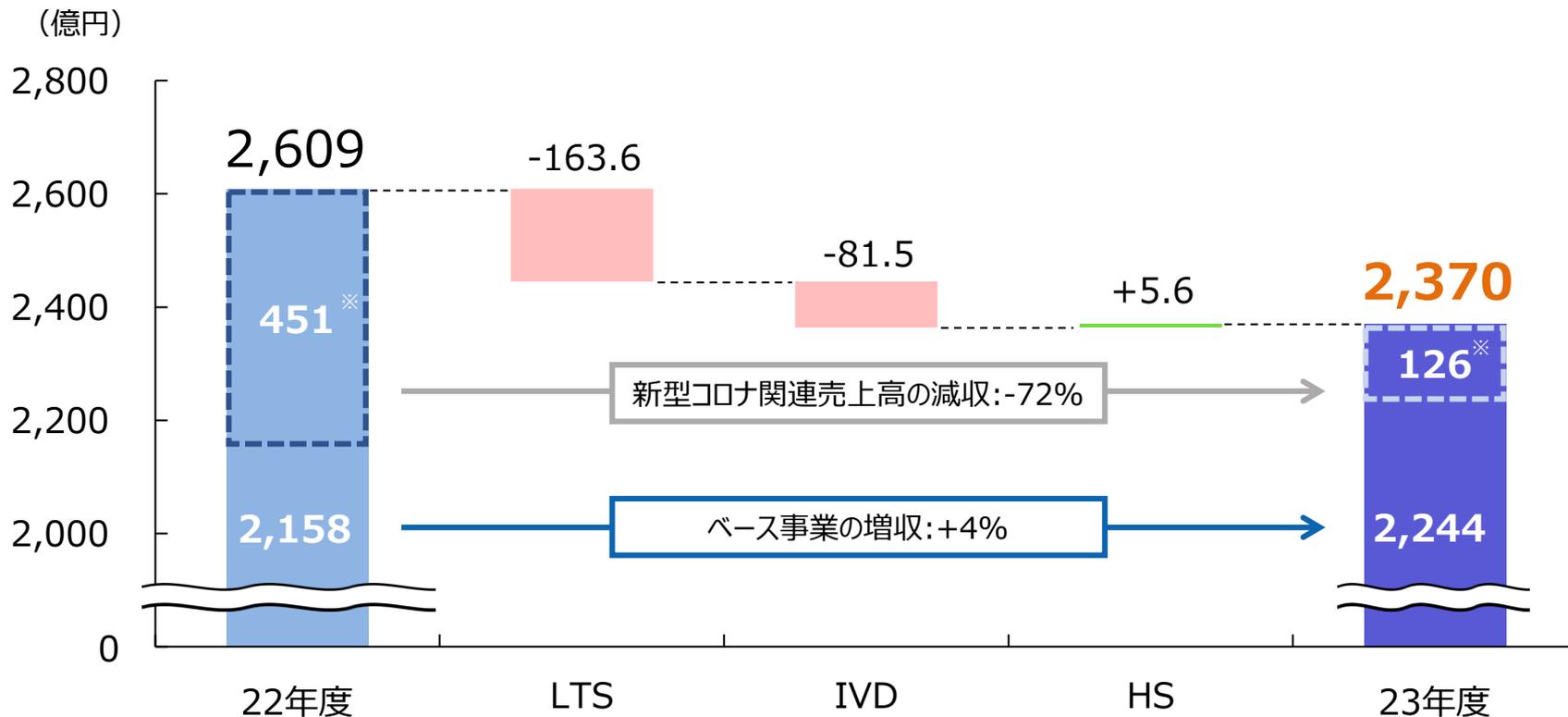
連結業績（対前期比）

（億円）

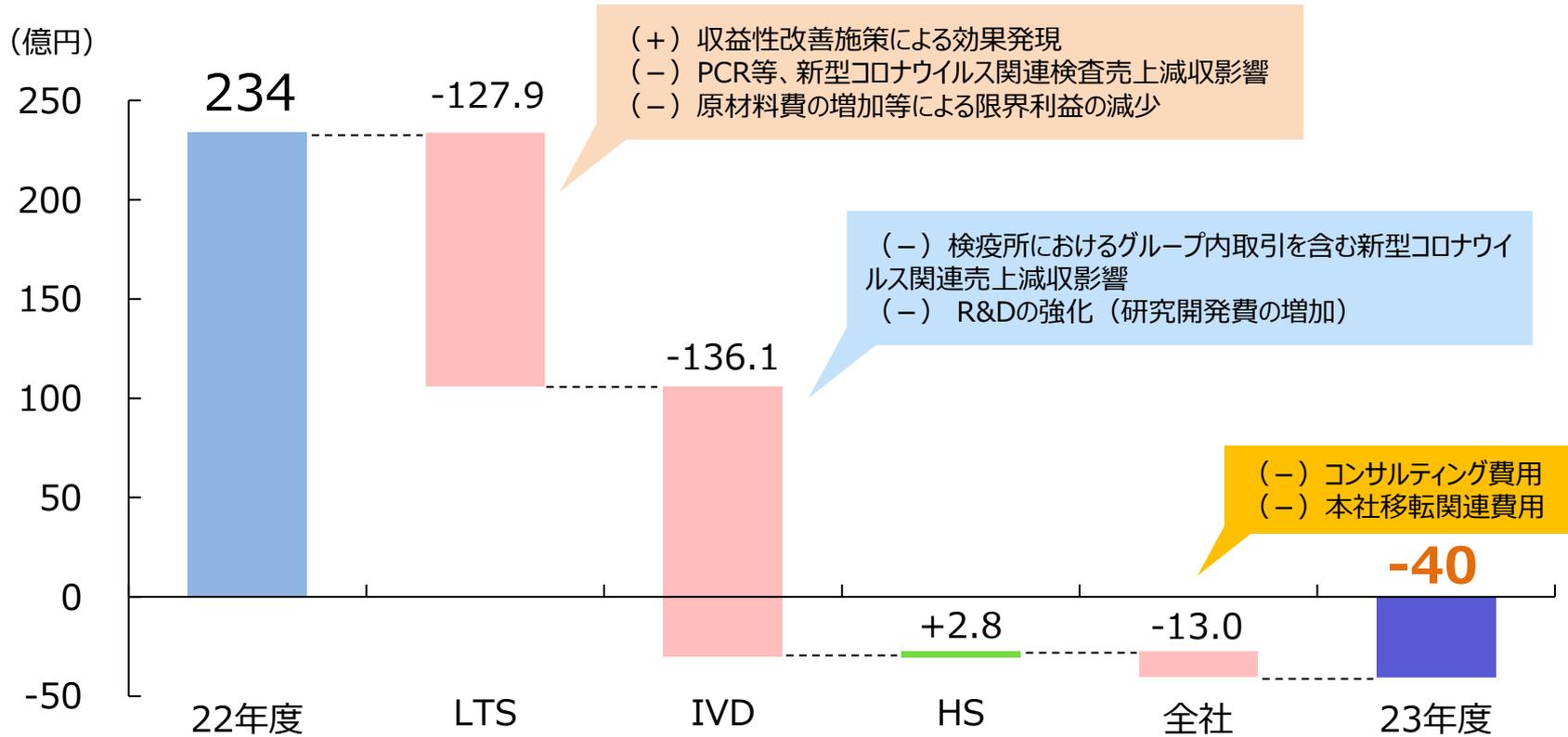
	22年度		23年度		対前期比	
	実績	利益率	実績	利益率	増減	
売上高	2,609		2,370		-239.6	-9.2%
LTS	1,631		1,467		-163.6	-10.0%
IVD	701		619		-81.5	-11.6%
HS	278		283		+5.6	+2.0%
営業利益/損失[※]	234	9.0%	-40	-1.7%	-274.2	-
LTS	3	0.2%	-125	-8.5%	-127.9	-
IVD	265	37.9%	129	20.9%	-136.1	-51.3%
HS	11	3.8%	13	4.7%	+2.8	+26.5%
経常利益/損失	220	8.4%	-72	-3.1%	-292.5	-
当期純利益/純損失	157	6.0%	-76	-3.2%	-232.3	-
EBITDA	431	16.5%	168	7.1%	-262.5	-60.9%
ROE	10.8%		-5.2%		-16.0pt	

※ 全社費用およびセグメント間取引消去を含む（22年度：▲44.8億円、23年度：▲57.8億円）

連結売上高 (対前期比)

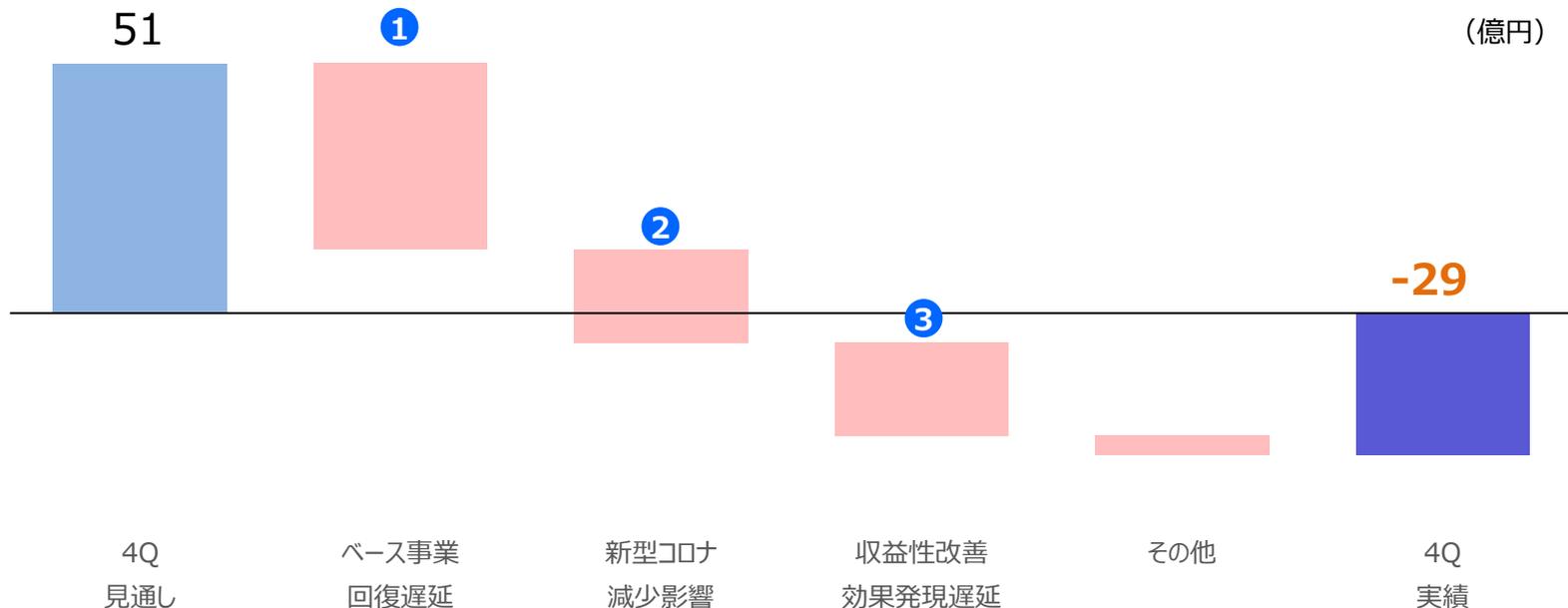


連結営業利益（対前期比）



見通しと実績との差異（4Q営業利益）

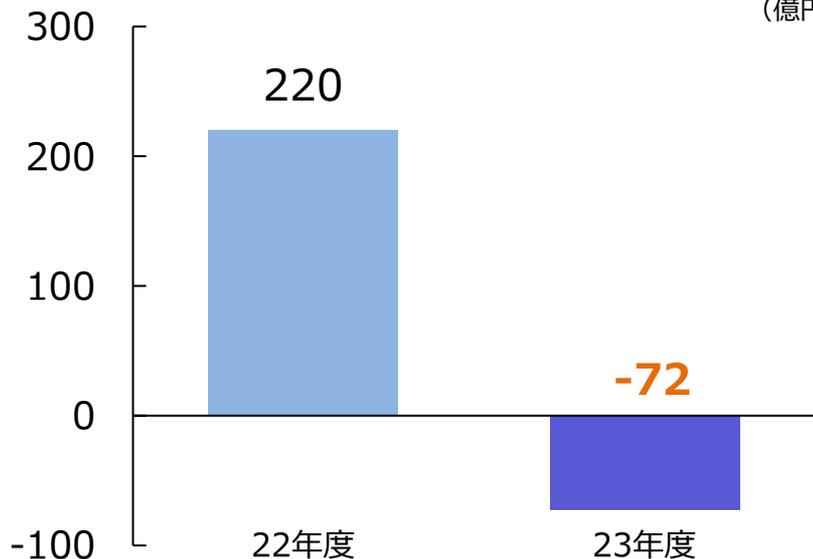
- ① 回復を見込んでいたベース事業における検査数が想定を下回ったこと
- ② 新型コロナウイルス関連検査の想定以上の減少
- ③ 主にLTSにおける収益性改善施策による効果発現の遅延



連結経常利益/損失および当期純利益/純損失

経常利益/損失

(億円)

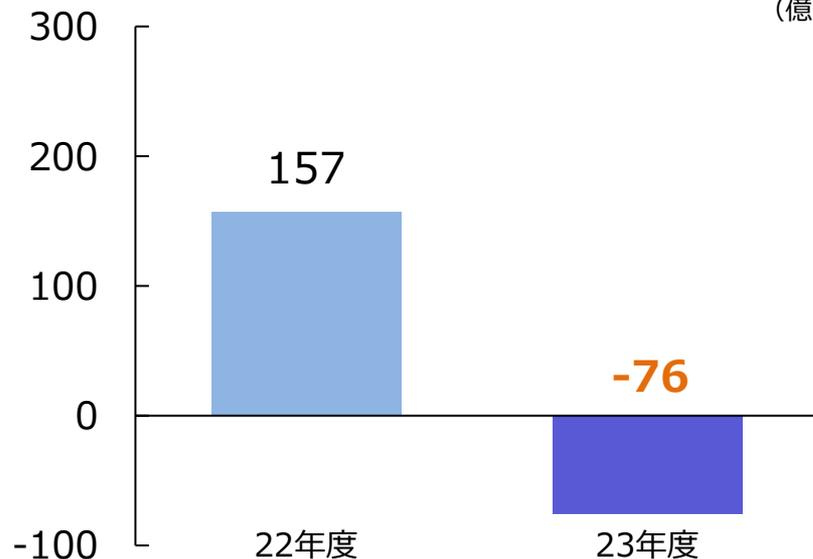


主な営業外損益

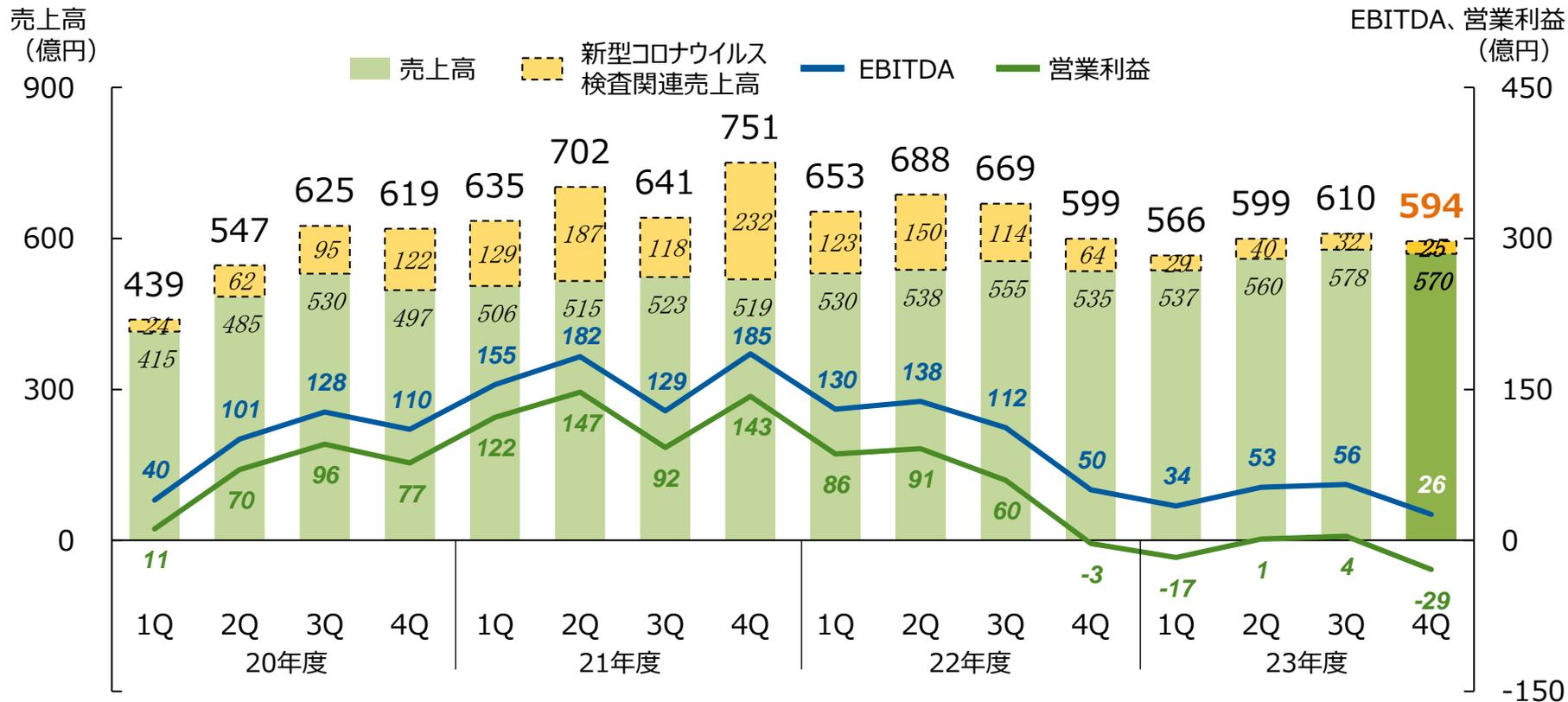
- 為替差益 9.8億円
- 持分法による投資損失 27.9億円

当期純利益/純損失

(億円)

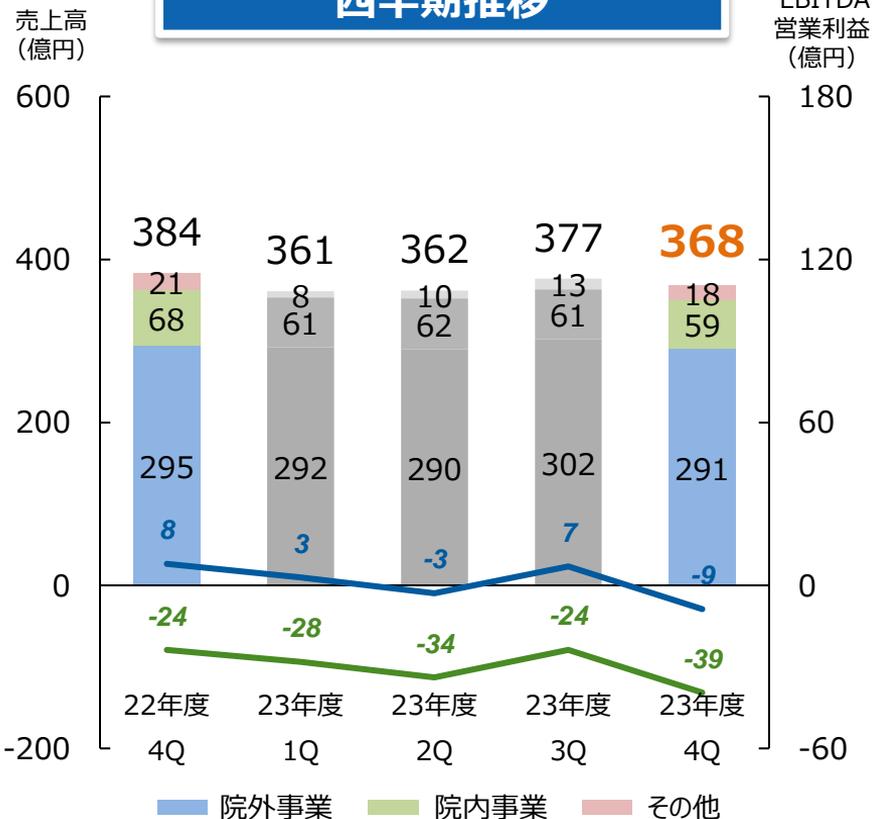


四半期毎の業績推移



LTS事業

四半期推移



対前期比

(億円)

	22年度	23年度	対前期比 増減	
売上高	1,631	1,467	-163.6	-10.0%
院外事業	1,252	1,175	-76.8	-6.1%
院内事業	309	243	-65.7	-21.3%
その他	70	48	-21.1	-30.4%
EBITDA	123 7.5%	-2 -0.1%	-124.2	-
営業利益	3 0.2%	-125 -8.5%	-127.9	-

売上高

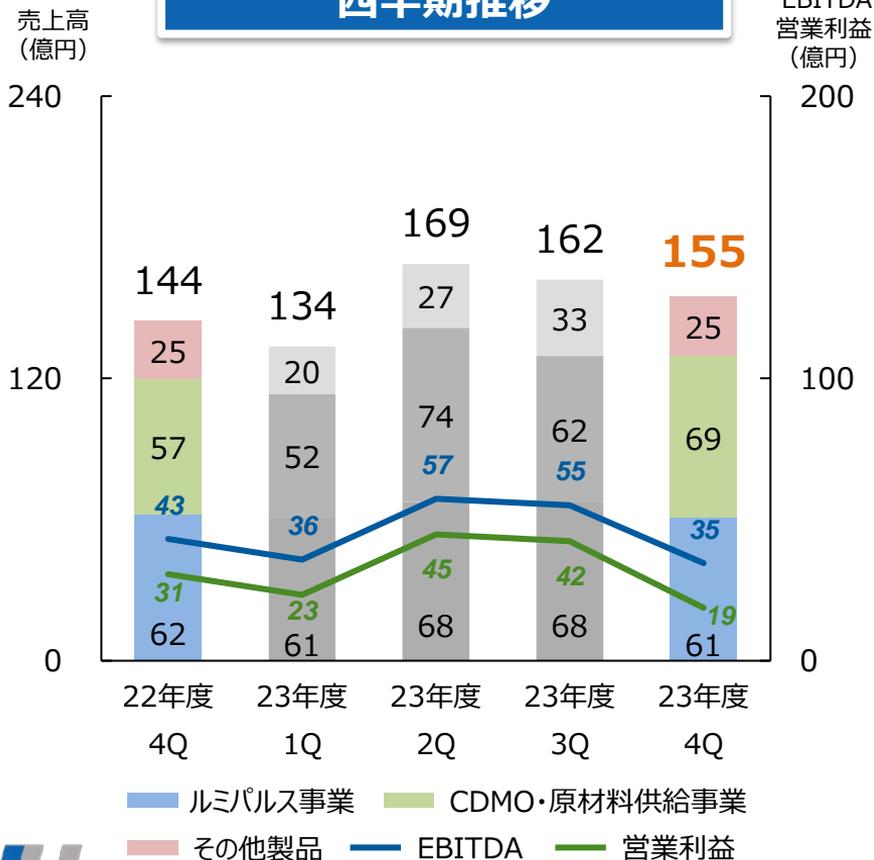
- 新型コロナウイルス関連：約35億円（前年同期：約239億円）
 ✓ 主にPCR検査、空港検疫所における抗原定量検査の減少
- 遺伝子関連検査の増加

営業利益

- 収益性改善施策による効果発現
- 新型コロナウイルス関連検査の減少による減益
- 原材料費の増加等による限界利益の減少

IVD事業

四半期推移



対前期比

(億円)

	22年度	23年度	対前期比 増減	
売上高	701	619	-81.5	-11.6%
ルミパルス	343	257	-86.2	-25.1%
国内	307	220	-86.7	-28.3%
海外	36	37	+0.6	+1.6%
CDMO・原材料	233	257	+24.0	+10.3%
その他	124	105	-19.4	-15.6%
EBITDA	309	183	-125.8	-40.8%
営業利益	265	129	-136.1	-51.3%

ルミパルス 内販売上高	22年度	23年度	対前期比 増減	
	70	45	-24.5	-35.1%

売上高

- 新型コロナウイルス関連：約91億円（前年同期：約212億円）
 ✓ 国内・海外ルミパルス、エスプラインの減収
- 円安の影響もありベース事業は伸長

営業利益

- 新型コロナウイルス関連売上高の減少にともない利益が減少
- R&Dの強化（研究開発費の増加）

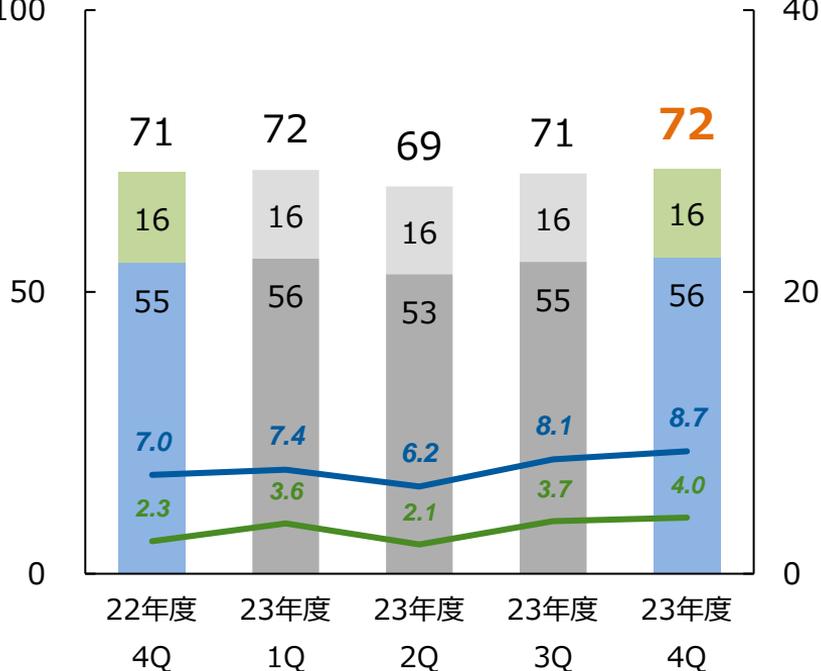
為替影響（売上高：+23.4億円、営業利益：+3.7億円）

HS事業

四半期推移

売上高
(億円)

100



■ 減菌関連事業

■ 在宅・福祉用具事業

— EBITDA

— 営業利益

EBITDA
営業利益
(億円)

40

20

0

対前期比

(億円)

	22年度	23年度	対前期比 増減	
売上高	278	283	+5.6	+2.0%
減菌関連	215	220	+5.6	+2.6%
在宅・福祉用具	63	63	-0.0	-0.1%
EBITDA	27.6	30.4	+2.7	+9.9%
営業利益	10.6	13.4	+2.8	+26.5%

売上高

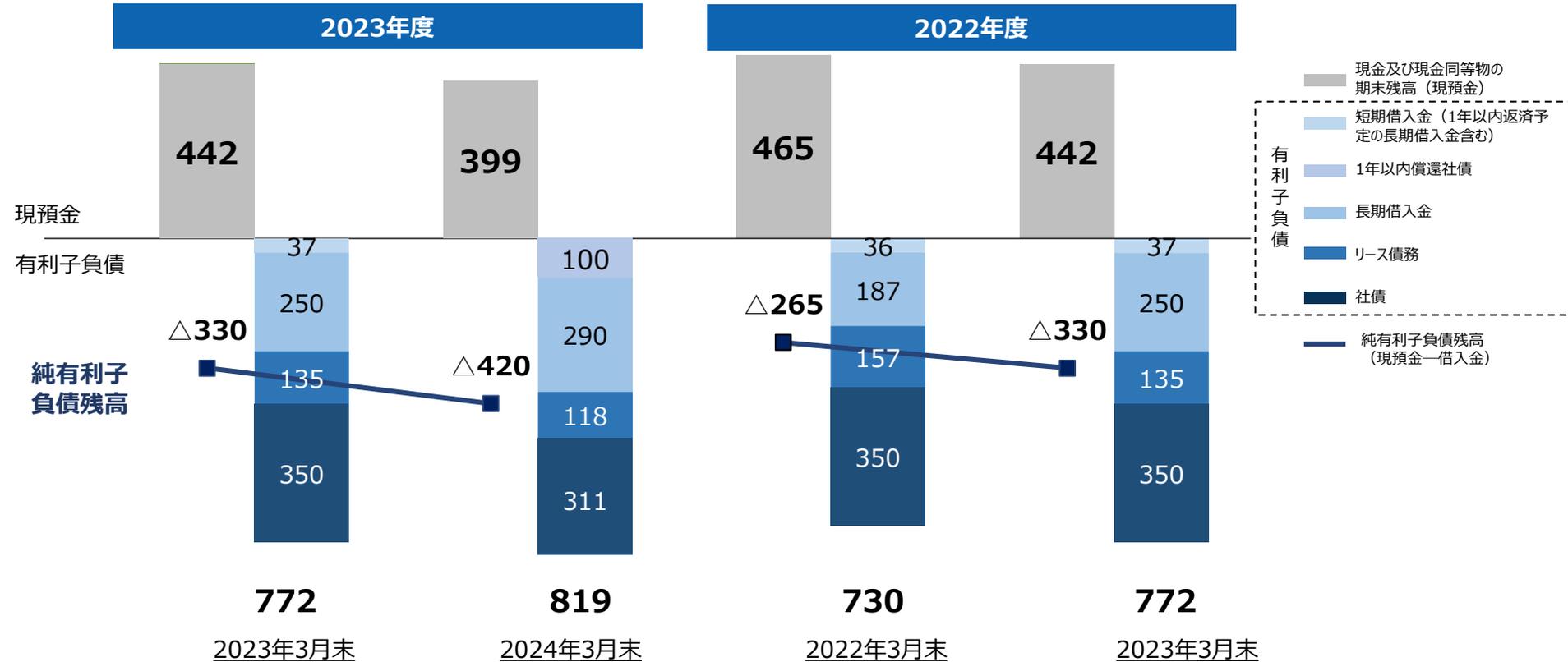
- 減菌関連事業：役務提供や物販を中心に伸長

営業利益

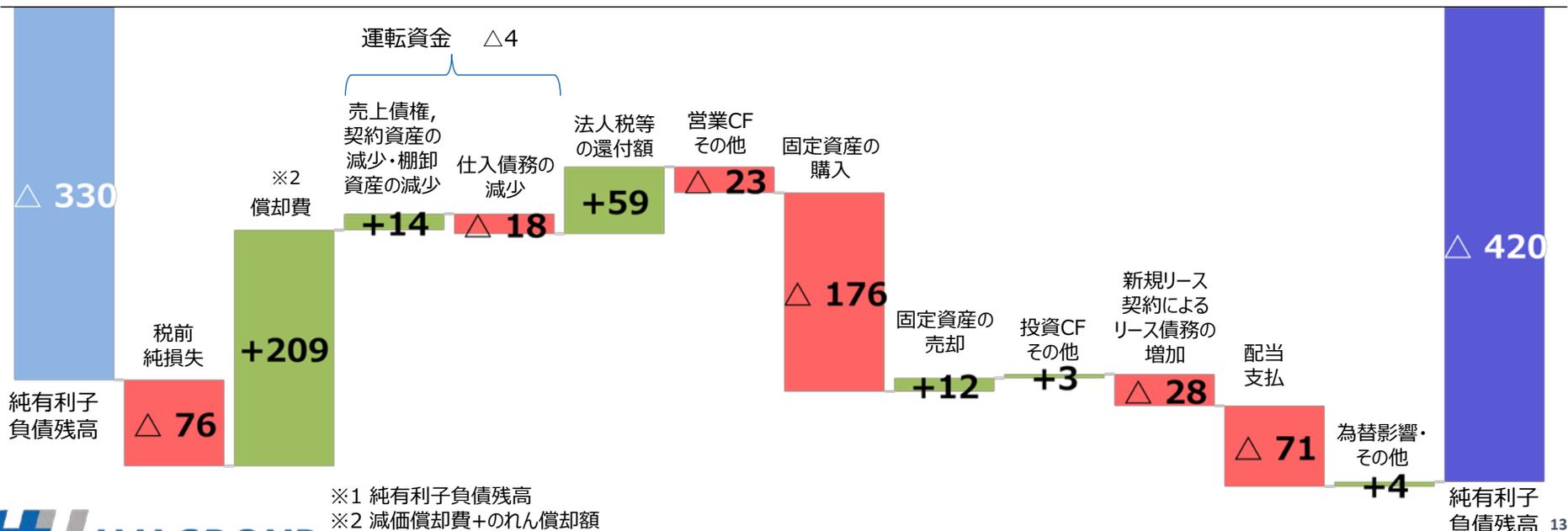
- 福祉用具事業の収益性改善
- 人件費等の増加

現預金・有利子負債残高

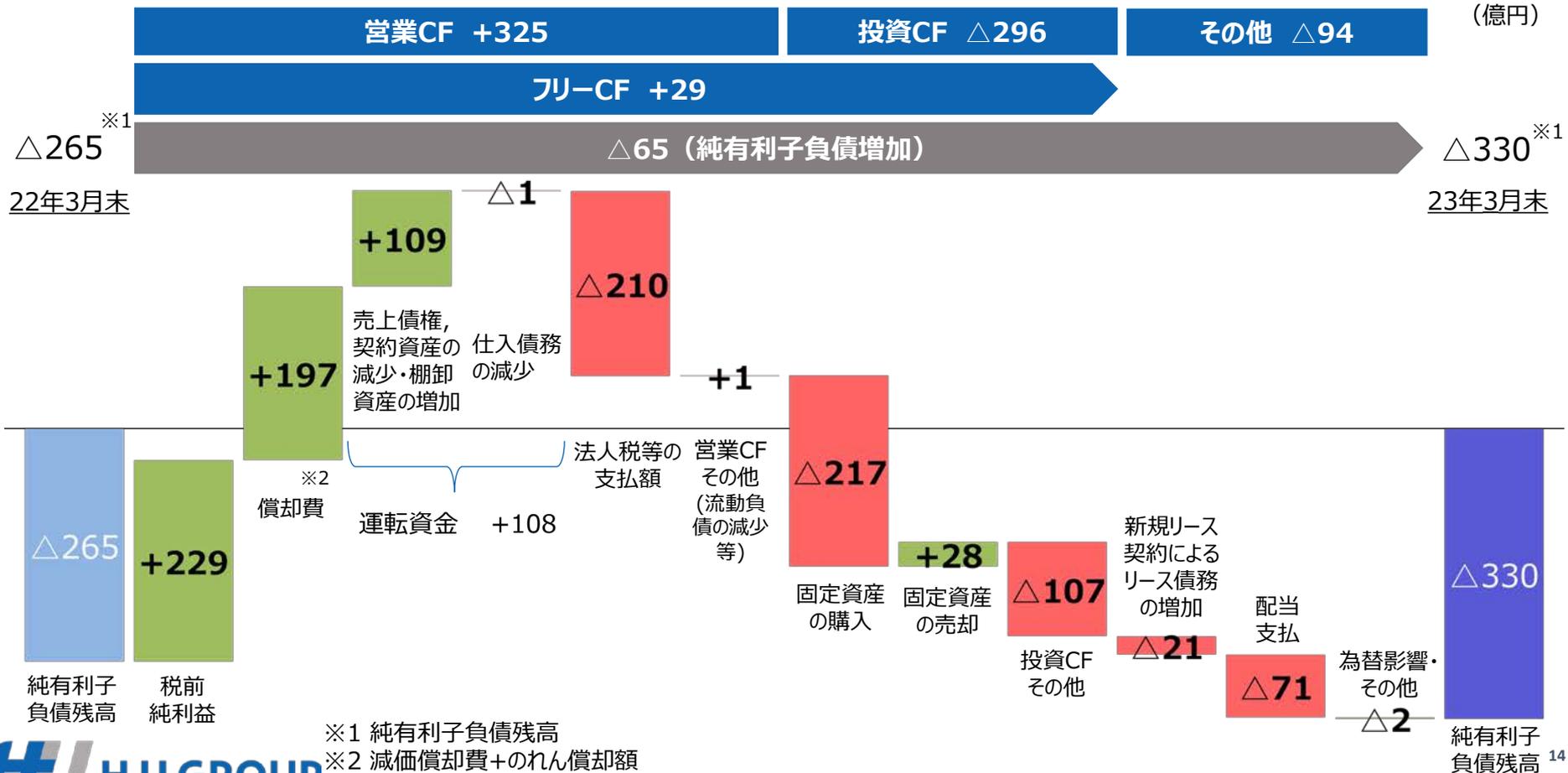
(億円)



2023年度期末連結キャッシュ・フロー（CF）の分析

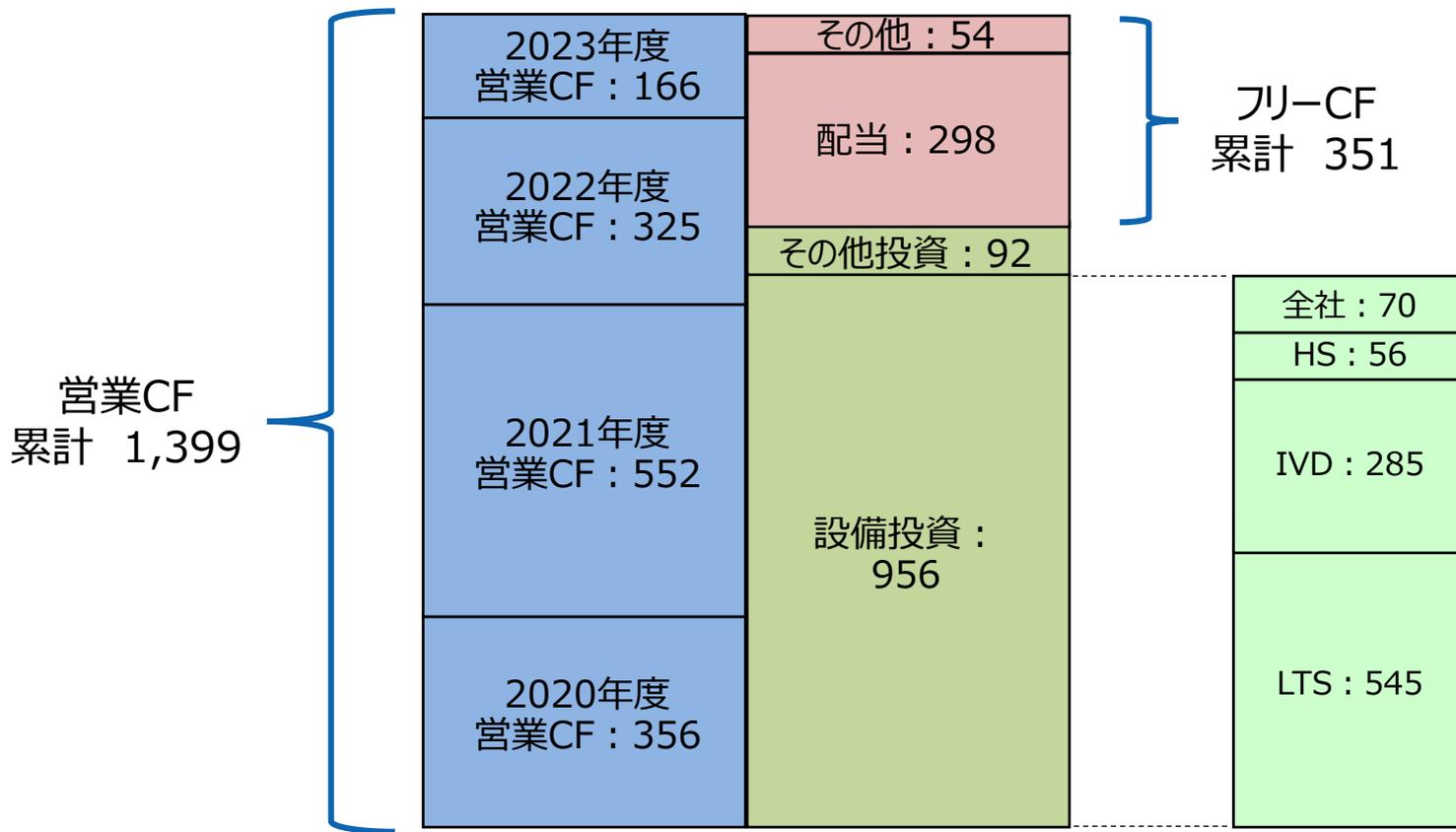


2022年度期末連結キャッシュ・フロー（CF）の分析



2020年度～2023年度（4年間）累計キャッシュフロー（キャピタルアロケーション）

(億円)



2024年度通期計画および今後の成長戦略

これまでの振り返りと今後の方向性

2020年度~2022年度

H.U. Bioness Complex立ち上げにともなう収益性低下を想定していたが、コロナ対応を通して大きな利益を享受

- 社会的責任を果たすべく、最優先で新型コロナ対応を実施
 - ✓ 最初期からのPCR受託および世界初の抗原定量検査試薬上市
 - ✓ 空港検疫所における検査体制の整備、大規模イベントサポート(3年累計コロナ関連売上：1,420億円)
- ベース検査数の減少および新型コロナ対応費用増加などのマイナス要素は増収にともなう利益増で表面化せず
 - ✓ セールスマックスの変化
 - ✓ 固定費構造悪化
- H.U. Bioness Complex立ち上げが遅延

2023年度

売上の減少、コストの増加により収益性が急速に悪化

- 新型コロナ関連検査売上の急速な減少（売上高：126億円、YoY 72%減）
- 減少したベース検査数の回復は停滞
- 急減に対応した固定費構造の見直しに着手
- H.U. Bioness Complexへの移管を開始も効果は限定的

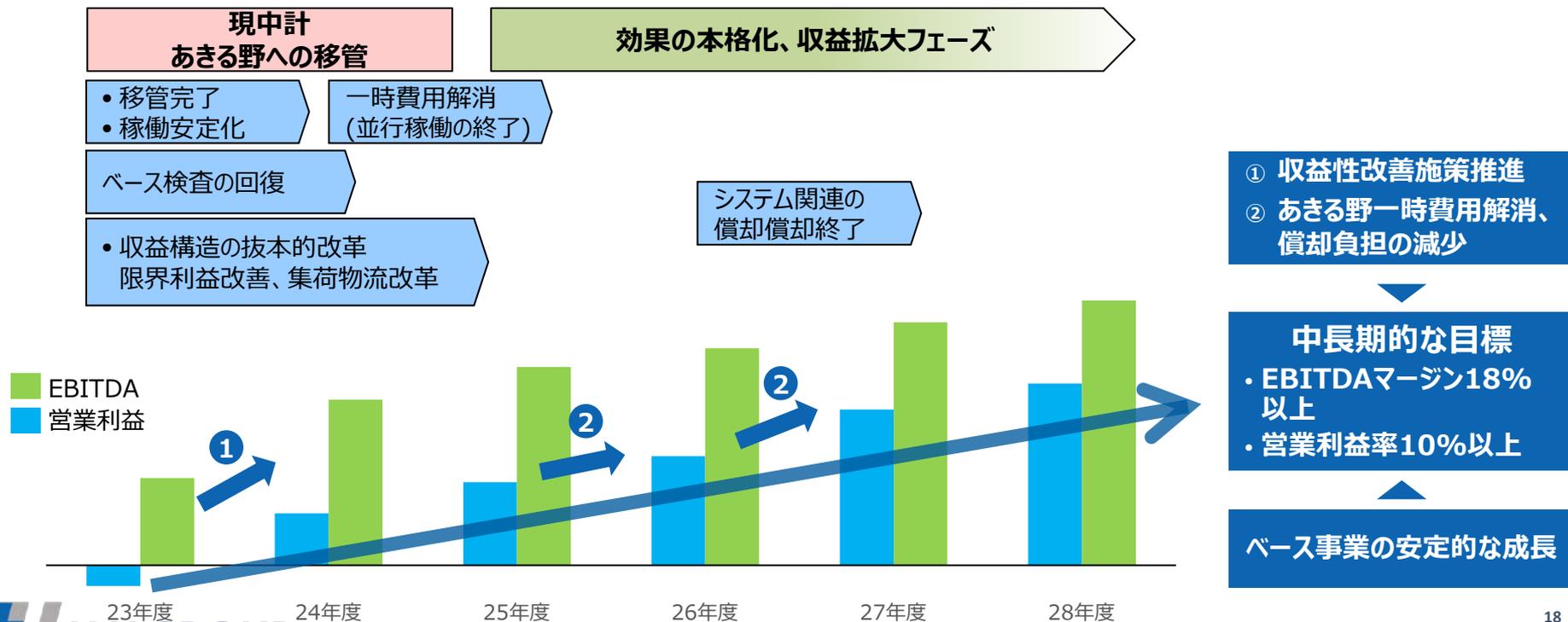
2024年度

利益を伴う売上の成長、コストコントロールにより収益を生み出す基盤を整備

- H.U. Bioness Complexへの移管を完了させる
- Afterコロナおよび中長期的な成長へ向けた最適なコスト構造を構築（固定費の抜本的改善）
- ベース検査の回復を想定するとともに利益を伴う売上成長の実現

今後5年間のEBITDA、営業利益イメージ

- 現中計の前半は新型コロナ対応および構造改革、後半からは投資回収と収益拡大を見込んでいたが、新型コロナの長期化等により、あきる野の移管・稼働の安定化を実現する期間と位置付ける
- 効果の本格的な刈り取り、収益の拡大は25年度以降を見込む



2024年度通期連結業績見通し

2024年度通期連結業績見通し

	23年度実績	24年度計画		(億円)
売上	2,370	2,410	+41	+1.7%
LTS	1,467	1,510	+43	+2.9%
IVD	619	600	-19	-3.1%
HS	283	300	+17	+6.0%
営業利益	-40	100 <small>4.1%</small>	+140	-
LTS	-125	-2 <small>-0.1%</small>	+123	-
IVD	129	130 <small>21.7%</small>	+1	+0.7%
HS	13	18 <small>6.0%</small>	+5	+34.6%
全社	-58	-47	+11	-
経常利益	-72	95	+167	-
当期純利益	-76	70	+146	-
ROE	-5%	5%	+10pt	

中計に対する達成度合い

2024年度における中計数値目標

- 連結売上高CAGR：6%以上
- 連結営業利益率：10%以上
- ROE：12%以上

5年間累計

- 営業CF：1,500億円以上
- FCF：500億円以上



2024年度見通し

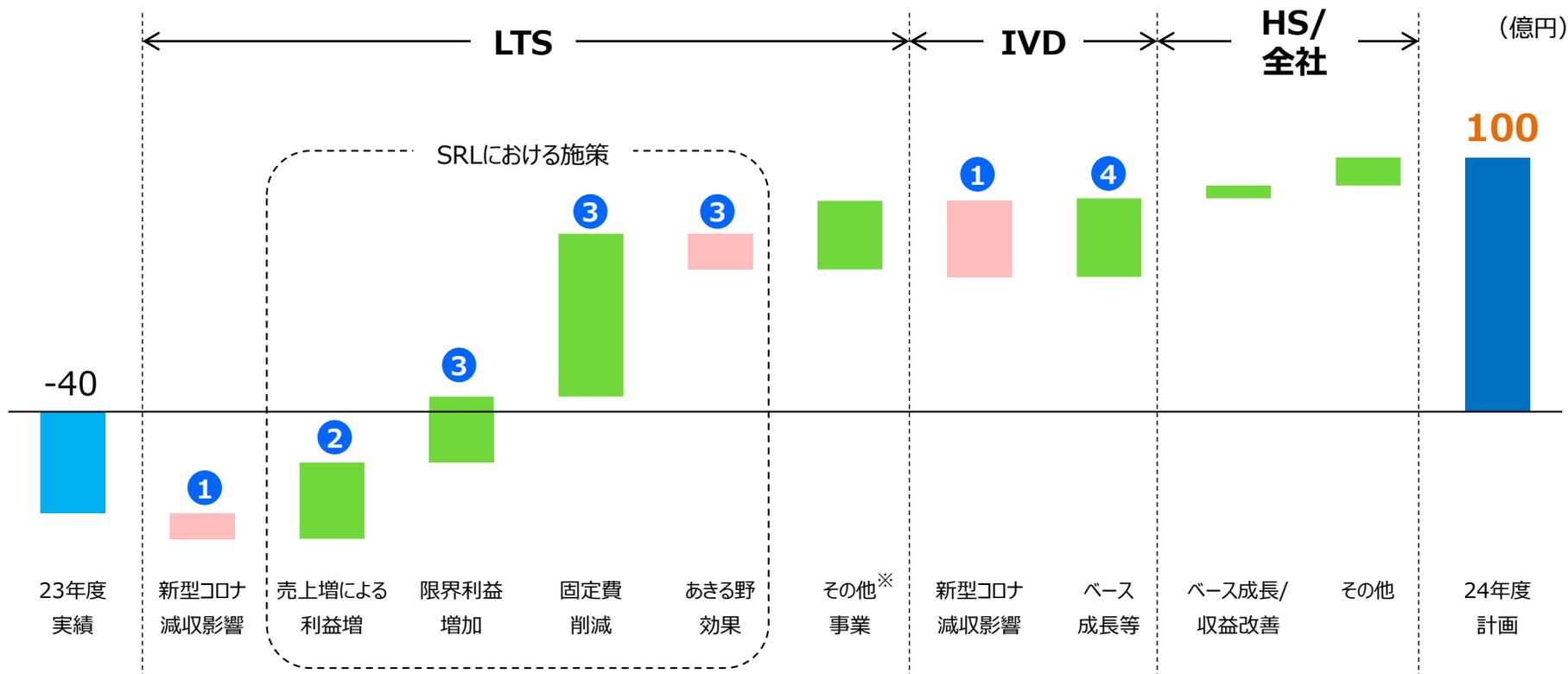
- 連結売上高CAGR：5%
- 連結営業利益率：4.1%
- ROE：5%

5年間累計見通し

- 営業CF：1,670億円
- FCF：500億円

2024年度営業利益見通しの内訳

24年度営業利益に影響を与える主要要素（①-④について次項以降にて説明）



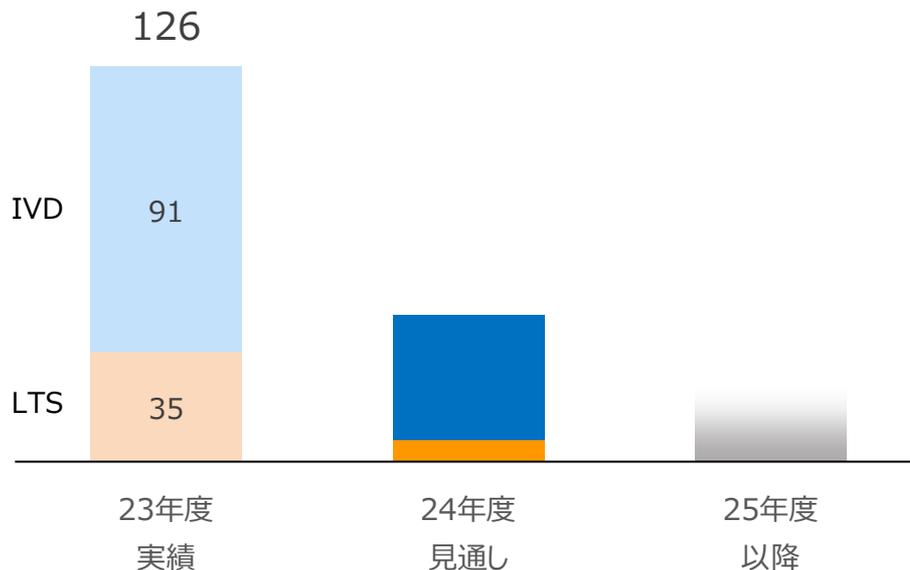
①新型コロナウイルス関連検査の見通し（LTS、IVD）

IVDを中心に一定レベルの売上が継続するものの、感染の収束にともない23年度比では減収を見込む

- 24年度は年間50億円レベルを想定（YoYで76億円の減収要因）
- 売上の中心となるのはIVD（ルミパルス、エスプライン）

- 24年度は売上の減少に準じた利益の減少を見込む（※25年度以降はさらに減少を想定）

新型コロナウイルス関連売上高の実績/見通し（億円）



②LTS事業の売上成長

新規顧客獲得等を通じたベース検査の拡大と、遺伝子関連検査の成長によってCAGR3.5%以上の成長を見込む

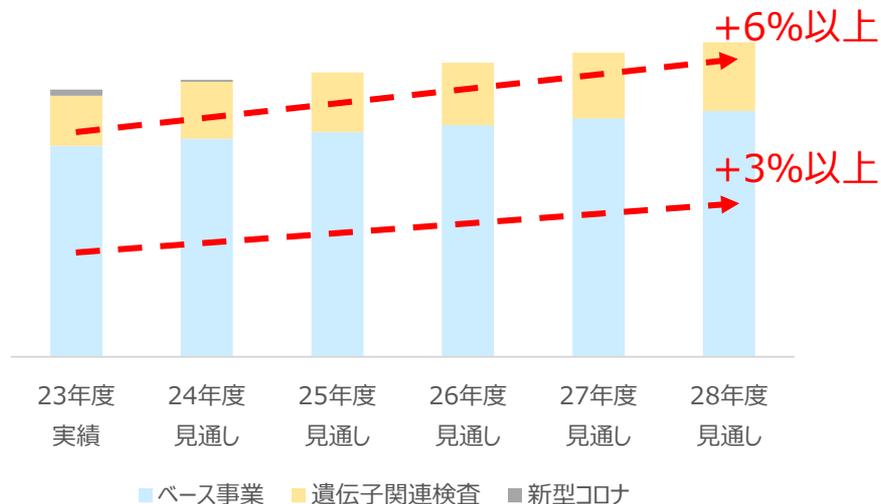
ベース検査：安定的に3%以上の成長

- 市場の回復および顧客増加により単価の下落（1-2%）を吸収
- 新規項目の積極的導入による限界利益の増加

遺伝子関連検査：6%以上の成長
(需要増加および新規項目の追加)

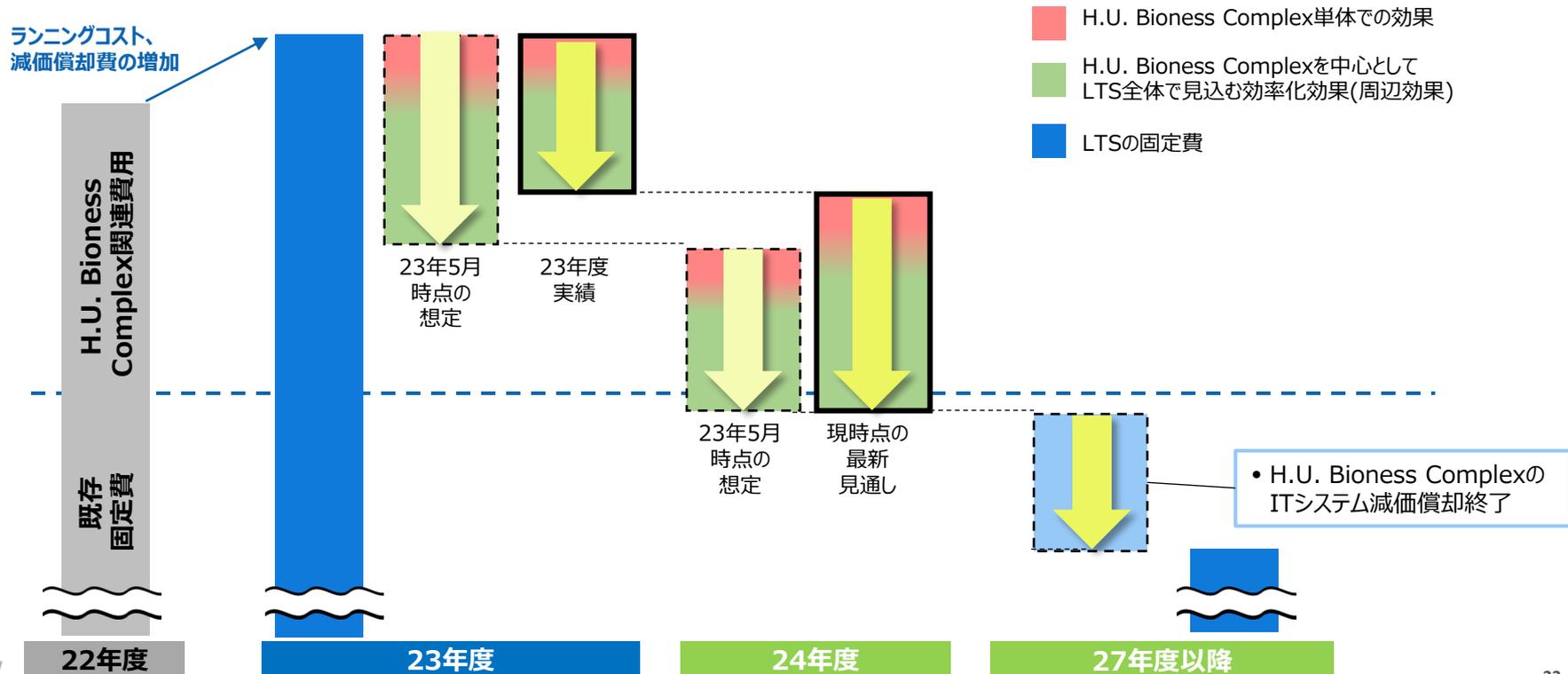
- 1顧客当たりのボリューム増加等により
並行して収益性を改善

LTS事業売上成長の見通し



③LTS事業の収益性改善（詳細は次項以降）

- プロジェクトの遅延によって、23年度の発現効果は未達
- 24年度にキャッチアップし、当初見込んだ規模の効果を目指す

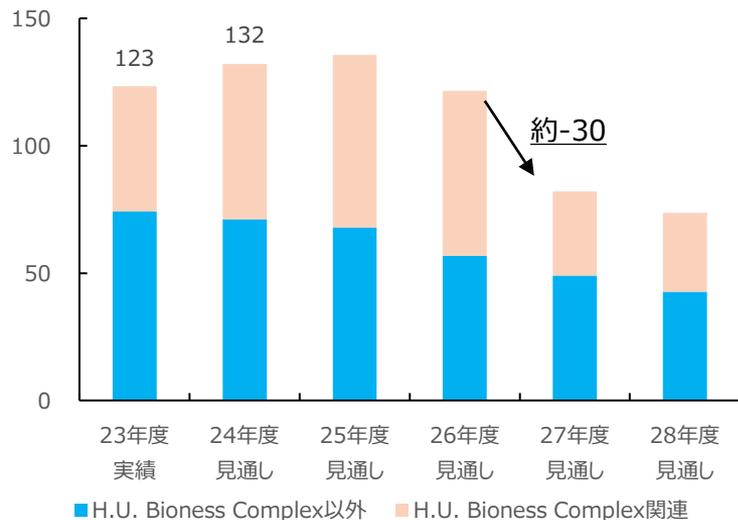


③LTS事業の収益性改善（H.U. Bioness Complex単体）

- 25年度以降一時費用は発生しない
- 27年度に無形固定資産の減価償却費が約30億円減少
- 効率化効果は25年度に最大化を見込む

	23年度	24年度	25年度	28年度
	実績	見通し	見通し	見通し
一時費用	19	11	0	0
システム	14	11		
その他	5			
減価償却費	49	61	68	31
有形固定資産	16	19	19	13
無形固定資産	33	42	49	18
ランニングコスト	51	62	62	62
賃料	24	24	24	24
水道光熱費	8	8	8	8
システム運用費等	19	30	30	30
効率化効果	+11	+14	+28	+29

（参考）LTS減価償却費の見通し（億円）



③LTS事業の収益性改善（周辺効果）

主な収益性改善施策（23年度期初想定/実績と24年度計画）

		23年度期初想定	23年度実績	24年度計画
限界利益改善	検査原価の見直し 検査オペレーションの改善	27億	16億	26億
固定費削減	委託業務の適正化 （集荷、社内業務）	13億	8億	33億
	保守契約（機器ほか）、 ITコストの最適化	19億	18億	16億
	人件費（人員、時間外）、 その他経費削減	6億	10億	15億
合計		65億	52億	90億

③LTS事業の収益性改善施策の一例

H.U. Bioness Complex自動化エリアにおける効率化

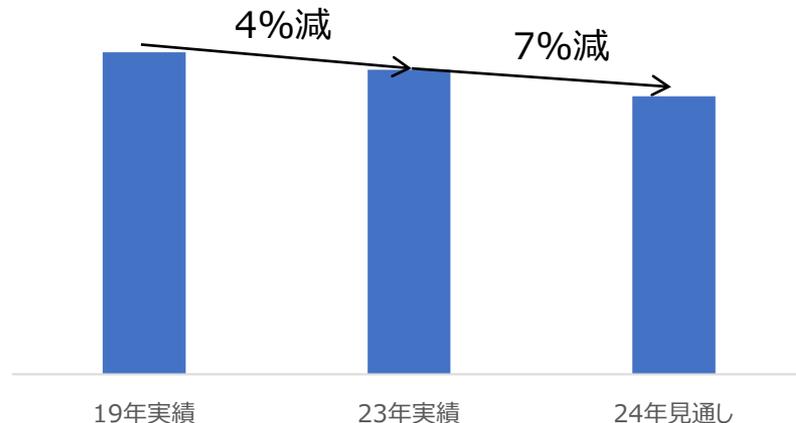
- 21年度対比で40%の生産性向上
- 前処理工程における人員の削減 (-27%)



人件費の削減

- あきる野移管完了による効果発現にあわせて徐々に人員をリリース
- 派遣社員の直接雇用化（第1四半期に実施）
- 首都圏ラボ閉鎖（閉鎖予定数：3箇所）

検査・業務領域の人件費推移



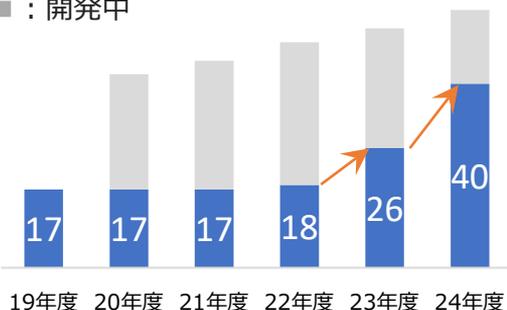
④ IVD事業（2024年度の主要施策）

CDMO

- 受託済みのプロジェクトの試薬開発フェーズが終了し、試薬製造に移行
- 新規項目受託を継続（年平均5項目程度/NEURO他）

グローバルプレイヤー向け受託項目数

- ：開発フェーズ終了
- ：開発中



NEURO

- ルミパルス項目ラインアップを拡充し、販売を拡大
- 血液用試薬の米国FDAへの申請（現在最終準備中）

ルミパルスNEURO販売実績（億円）



国内ルミパルス

- 国内の設置済み機台（約2,000台）への新規項目の採用を拡大
- 23年度には6項目を上市

超高感度検出技術

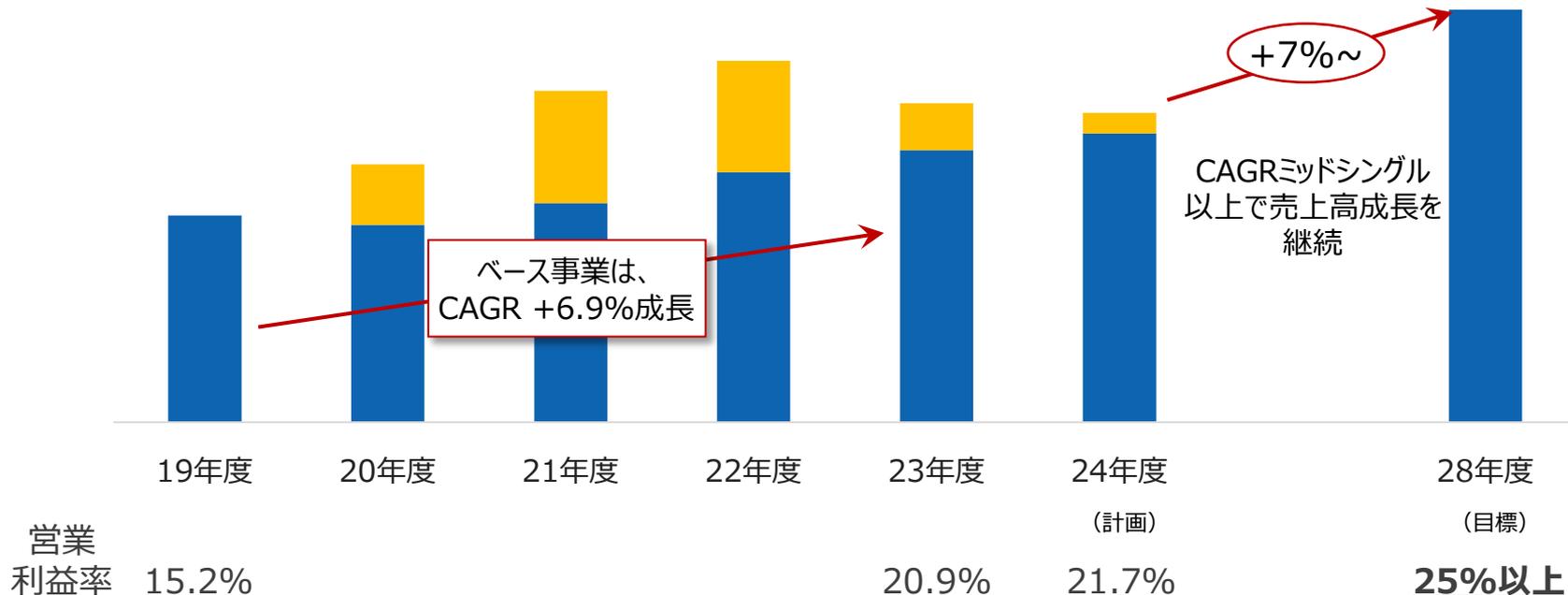
- 主要な開発マイルストーンを達成（24年3月）
- 現在、CDMOパートナー候補と交渉中

その他、コスト構造の改善を継続的に実施（海外子会社の閉鎖、製品ポートフォリオの見直し等）

④ IVD事業 今後の成長の見通し

IVD事業 成長の見通し

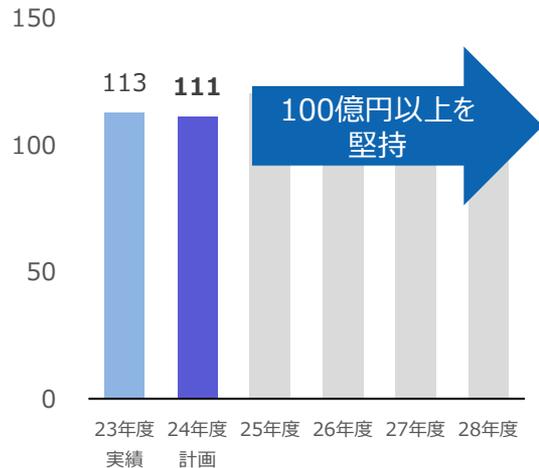
- : ベース事業
- : 新型コロナ関連



2024年度 研究開発費、設備投資額、減価償却費

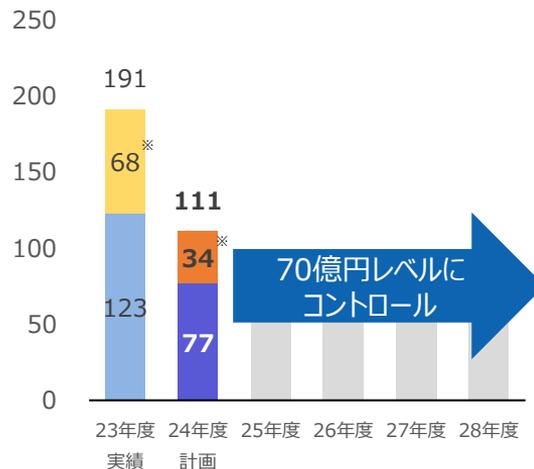
(億円)

研究開発費



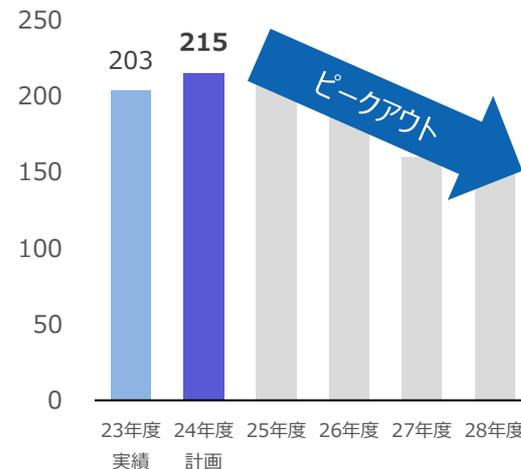
- 将来成長のため100億円以上を堅持
- IVD：ベース売上比15%以上を投下

設備投資額



- H.U. Bioness Complex関連で追加投資が24年度に発生
- 24年度以降はベース投資を70億円レベルにコントロール

減価償却費



- 24-25年度がピーク
- H.U. Bioness Complex無形資産償却の大部分が27年度に終了

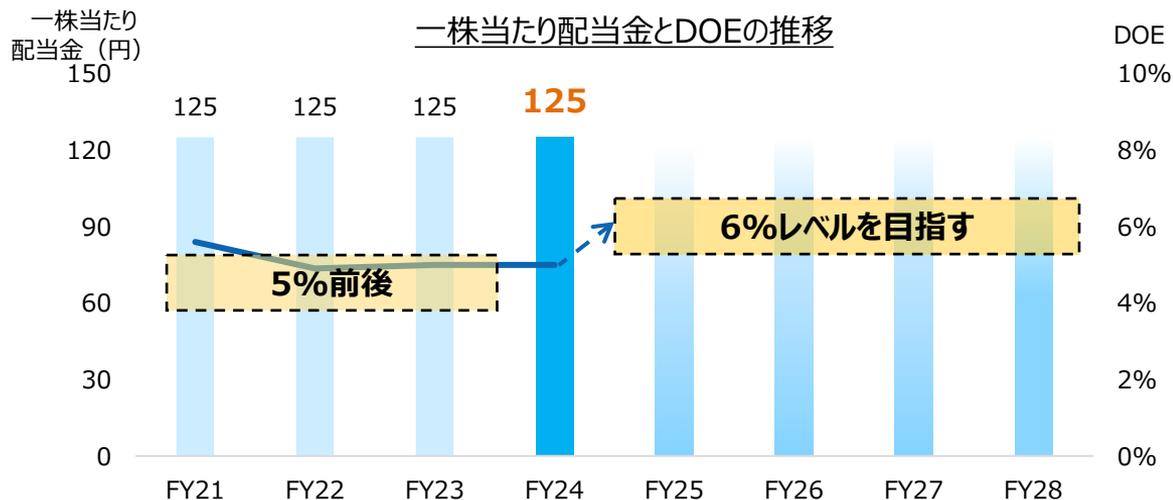
※ H.U. Bioness Complex関連

株主還元の方考え方

株主還元基本方針
(21年5月発表時
から不変)

- 主たる配当のKPIとして、DOE※（連結自己資本配当率）を採択
- キャッシュフロー、中長期的に健全な財務基盤の維持などを総合的に勘案し、DOE6%レベルを目指すこととし、安定的かつ継続的な配当を実施する

還元方針は不変

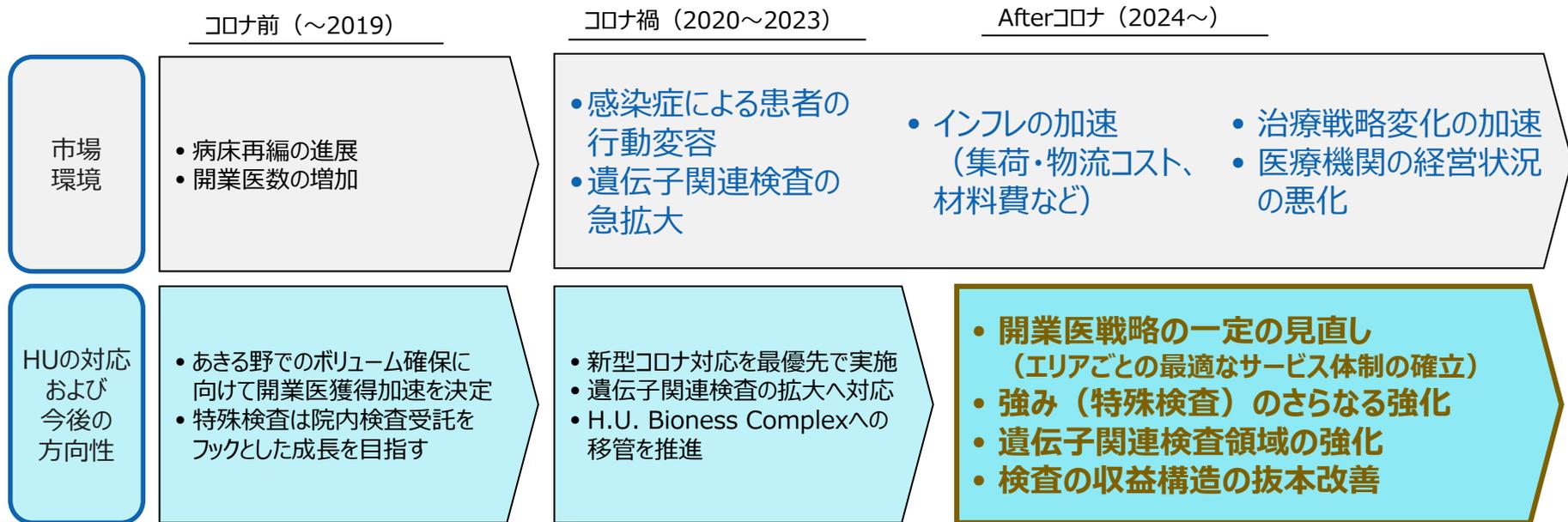


安定的かつ継続的な株主還元の継続

今後のLTS事業の戦略

事業環境の変化と当社戦略の方向性

- 事業環境の変化を考慮し、戦略を一部見直し
 - ✓ 開業医は地域や診療科（領域）にとって最適なサービスを提供できる体制を構築する
 - ✓ 拡大傾向にある遺伝子関連検査の売上成長を確実にする



開業医戦略の一定の見直し

従来の
前提/方針

病床再編加速による開業医市場の注力（一般検査の増加）
⇒開業医顧客獲得を目指す

事業環境の変化

医療機関の経営
状態悪化

患者の行動変容

先端医療の拡大

価格ダウン圧力の
継続

エネルギーコストの
上昇

想定以上の
集荷・物流コストの増加

当社の
現状

- 検査原価の上昇による収益性への影響

今後の
方向性

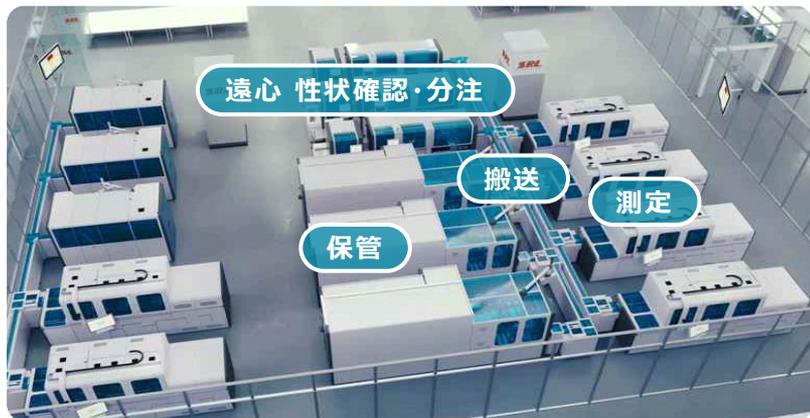
- 投下リソースは病院事業へ集中
- 開業医市場：エリアごとの最適なサービス体制の確立を目指す
（首都圏・関西圏の一般検査体制の再編）

感染症検査領域における当社の強み

当社の蓄積されたノウハウを活用し、感染症領域における競争優位性を実現

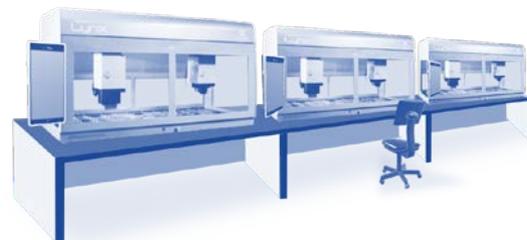
感染症遺伝子検査オートメーションシステム（世界最大）

- 生産性の大幅な向上（約10%向上）
- 大量処理および多様なニーズに対応が可能
- ヒューマンエラーの撲滅
- 様々な検体容器、検体材料が測定可能
- コンタミネーションリスクと検査員の感染リスク低減



結核菌検査 前処理工程の完全自動化（世界初）

- 生産性の向上
- ヒューマンエラーの撲滅
- 検体採取後の保存安定性向上（採血後32時間⇒54時間）
 - 遠隔地や休日前の検査受託も可能になり、より多くの顧客ニーズに対応

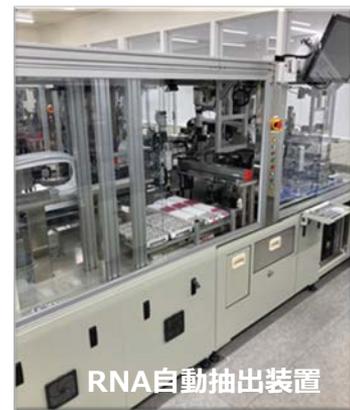


3,000 Patients/day

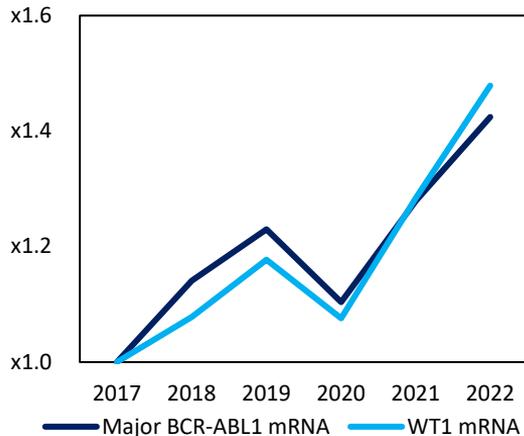
遺伝子関連検査領域における当社の強み

染色体検査シェア70%以上をはじめ、白血病遺伝子検査においては、当社独自の前処理装置により**核酸抽出行程を自動化し高品質と高生産性を両立**

- ✓ RNA自動抽出装置導入（独自開発）による生産性の向上
- ✓ 抽出用チューブの2次元バーコードを自社開発の工程管理システムにて管理し、トレーサビリティを担保、均一な検査結果を提供可能
- ✓ 上記に加え、作業工程ごとに部屋を分離することでコンタミネーションリスクを排除



2017年を1とした場合の
主な遺伝子検査の国内実施件数増加率※



バーコードによる照合



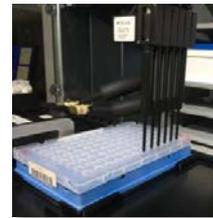
検体前処理



全自動RNA抽出

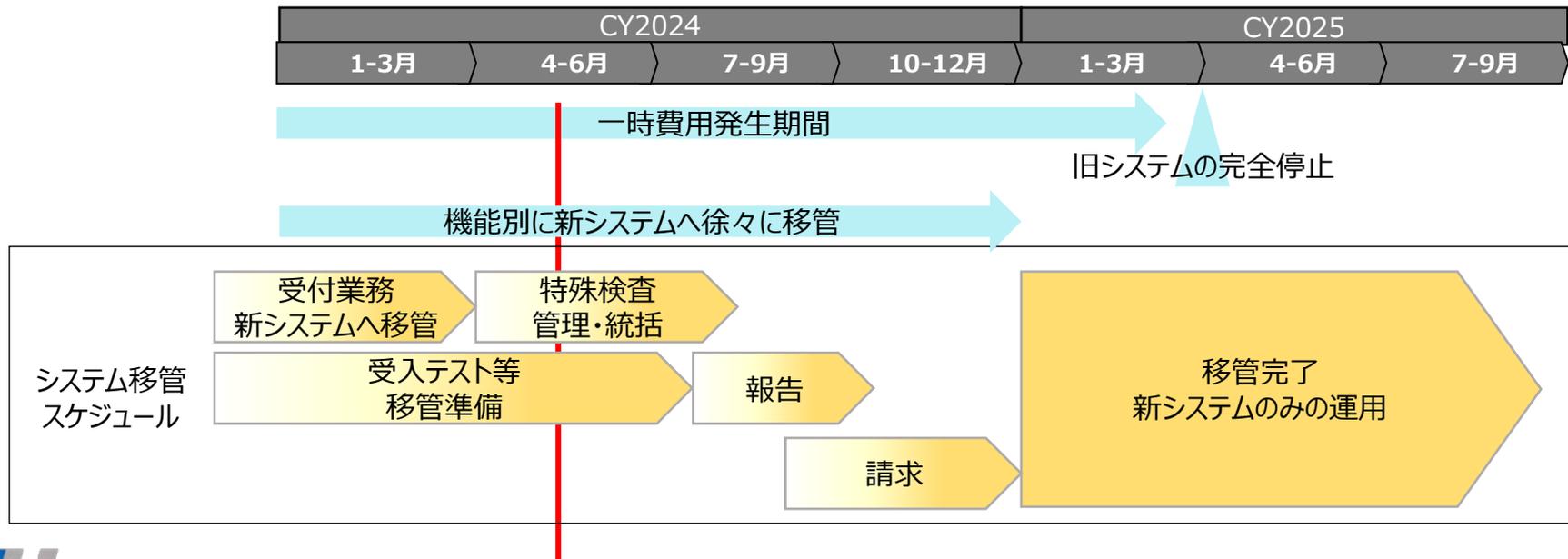


自動分注機による
アッセイプレート作成



H.U. Bioness Complex 移管完了までのスケジュール

- 24年中に旧システムから新システムへの移管を実施
(特殊検査管理・統括システム、請求、報告機能などを、運用テスト・検証を実施しながら徐々に移管)
- 24年度中はシステム移管にかかる一時的な費用が継続
- 25年からは新システムのみでの運用を実施 (旧システムはバックアップのため25年3月に完全停止)



今後の成長に向けたLTS事業の方向性

病院市場へリソースを集中し先端医療領域での付加価値を最大化

企業価値
の最大化



Appendix

グローバルの主要なESG評価

ESG評価



MSCI ESG Ratings

- ✓ 2022年のレーティングより **AAA評価**(最上位)を維持

CDP

CDP 2023年回答

- ✓ 気候変動: **3年連続 A-評価**
- ✓ サプライヤーエンゲージメント: **A-評価**



Sustainalytics

- ✓ 2022年のレーティングより **Low Risk**(上位2番目)を維持



ISS-ESGレーティング

- ✓ 2023年より **プライム**評価を維持

ESGインデックス



FTSE Blossom
Japan Index

FTSE Blossom Japan Index

- ✓ 2023年に**初選定**



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

- ✓ **2年連続選定**

2023 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

MSCI ジャパンESG・セレクトリーダーズ

- ✓ **7年連続選定**

2023 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

MSCI 日本株女性活躍指数 (WIN)

- ✓ **5年連続選定**



S&P/JPXカーボン・ エフィシエント指数

- ✓ **6年連続選定**

MORNINGSTAR GenDi J

Japan ex-REIT Gender Diversity
Tilt Index

TOP CONSTITUENT 2024

Morningstar 日本株式

ジェンダー・ダイバーシティ・ティルト指数 (除くREIT)

- ✓ 2023年に**初選定**

H.U.グループ ブランドムービーおよびブランドサイトを公開

当社グループがMissionに掲げる「ヘルスケアにおける新しい価値の創造を通じて、人々の健康と医療の未来に貢献する」という想いと企業姿勢をより広く認知いただくため、ブランドムービー及びブランドサイトを3月18日に公開いたしました。

キャンペーンコンセプト 『Nice to H.U.「はじめまして」で未来を守る。』

どんな治療も、どんな予防もいちばんはじめにわたしたちがいる。「はじめまして」から、あなたといっしょに臨床検査というパートナーとして、ずっと最後まで守りたい。そんな当社グループの想いをキャンペーンコンセプトで表現しました。

●ブランドサイト



<https://www.hugp.com/brand/>

●ブランドムービー



100秒動画：<https://youtu.be/Rb1wvUiuTV8>

30秒動画：<https://youtu.be/nBaDm1NPjTk>

▶ 本件についての当社からのお知らせは[こちら](#)（2024.3.18）

【連絡先】

H.U.グループホールディングス株式会社

IR/SR部 ir@hugp.com

将来見通しに関する注意事項：

資料中の業績見通し数値は、現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣による判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づき作成されたものです。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら業績見通しとは異なる結果となり得る事をご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢の悪化、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、新製品上市の遅延、競合会社の製品戦略による圧力、当社既存製品の販売力の低下、販売中止、等がありますが、これらに限定されるものではありません。